

第2回森林技術連携フォーラム in えひめ

森を本当に再生するために ～これからの森林管理～

日時 平成23年12月13日 火曜日

13:15～16:45 開場 13:00

場所 テクノプラザ愛媛 1階テクノホール
松山市久米窪田町 337-1

入場無料。参加ご希望の方は下記へ事前登録をお願いします。

当日参加の場合は立ち見になる場合があります。

※会場定員 200名



開催の挨拶

13:15～13:25

愛媛大学社会連携推進機構長

林 和男

森林総合研究所 四国支所長

今富裕樹

口頭発表

13:25～14:55

生物多様性から森林環境管理を考える

愛媛大農学部 二宮生夫

低コスト再造林技術の開発 ―コスト 1/2 を目指して―

森林総研九州 中村松三

使いやすい森林作業道の開設（事例紹介）

愛媛県林研セ 竹内一真

人工林を広葉樹林化するための更新判断 ―現地での判断法―

森林総研四国 田内裕之

人工林を広葉樹林化するための更新判断 ―GISでの判断法―

愛媛県林研セ 坪田幸徳

パネル発表

14:55～15:20

森林総合研究所 愛媛県林業研究センター

社会人教育課程の案内

15:20～15:30

愛媛大学大学院農学研究科

森林環境管理特別コース・リカレントコースの紹介

総合討論・質疑応答

15:30～16:40

コーディネーター

愛媛大学農学部 原田 光

パネラー

愛媛大学農学部 二宮生夫

（独）森林総研九州支所 中村松三

（独）森林総研四国支所 田内裕之

愛媛県林業研究センター 竹内一真、坪田幸徳

閉会の挨拶

16:40～16:45

愛媛県農林水産研究所 林業研究センター長

森 格良

主催：愛媛大学 農学部、愛媛県農林水産研究所 林業研究センター

独立行政法人森林総合研究所



テクノプラザ愛媛



お問い合わせ

参加希望の方は、下記のいずれかの機関に12月5日までに
ご連絡下さい。

愛媛大学農学部森林環境管理特別コース事務局

E-mail: morinokuni@agr.ehime-u.ac.jp

Tel/Fax: 089-946-9086

愛媛県農林水産研究所 林業研究センター 研究指導室

E-mail: ringyo-cnt@pref.ehime.jp

Tel: 0892-21-2266 Fax: 0892-21-3068

独立行政法人森林総合研究所 四国支所 連絡調整室

E-mail: koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp

Tel: 088-844-1121 Fax: 088-844-1130

フォーラム趣旨

本フォーラムでは、木材の生産に関わる省力・低コスト化の技術から、木材生産以外の大事な機能（公益的機能）を活かすための管理方法まで、最近問題となっている話題を、最新の研究成果を交えながら紹介いたします。森林や林業の現場で活躍されている方々を含め、関心のある方に幅広く参加していただき、皆さんと有意義な議論が出来ればと思います。

口頭発表のポイント

○ 生物多様性から森林環境管理を考える

愛媛大農学部 二宮生夫

農業と違い、環境を大きく変えることのできない林業では、森林が持っている機能を十分に発揮させることが重要となります。森林には施業対象の樹木だけでなく、他種の樹木、植物、動物が共同して生態系をつくり、物質の循環、すなわち生命の連環を支えています。フォーラムでは森林環境管理の鍵となる生物多様性について紹介し、どの様にすれば生態系の機能を十分に発揮させることができ、結果的に持続的な生産を維持することが可能かを考えます。

○ 低コスト再造林技術の開発 ―コスト 1/2 を目指して―

森林総研九州支所 中村松三

持続的な林業経営を行うためには育林コストの大幅な削減が不可欠となっています。しかし伐出作業コスト削減の取り組みに比べて、育林コスト削減への取り組みは非常に立ち遅れています。伐採から地拵え、植林、下刈りへの今までの方法を抜本的に見直し、植栽後5～6年までの育林コストを従来の1/2程度まで削減するために必要な技術開発を目指して、農林水産省予算のプロジェクトを実施中です。ここでは低コスト化を目指す全般的な考え方と、プロジェクト研究を通じて見えてきた事を紹介します。

○ 使いやすい森林作業道の開設（事例紹介）

愛媛県林研セ 竹内一真

平成22年2月、農林水産省に「路網・作業システム検討委員会」が設置され、主に森林施業のために林業機械が走行する道を森林作業道と位置付けました。この森林作業道は、効率的な森林作業にかかせない全幅員2.0～3.0mのもので、使いやすさ、経済性、耐久性が求められます。今回は、ハーベスタやプロセッサなど高性能林業機械を使用した搬出間伐作業を中心に、使いやすい森林作業道に重点を置いて事例を紹介します。



○ 人工林を広葉樹林化するための更新判断 ―現地での判断法―

森林総研四国支所 田内裕之

水源のかん養や景観の保全など公益的機能を発揮させたり、広葉樹木材資源を育成したりするために、人工林を針広混交林や広葉樹林へと誘導する施業が行われています。その時、人工林に侵入した種子が発芽定着し、稚樹親木へと育つのなら天然更新による広葉樹林化が図れ、施業のコストダウンにもつながります。ここでは、現地において天然更新の可否を判断する最新の手法や、そのために考えておくべき事などを紹介します。

○ 人工林を広葉樹林化するための更新判断 ―GISでの判断法―

愛媛県林研セ 坪田幸徳

広葉樹が人工林内に侵入・定着していく際には、少なからず地理的影響を受けると考えられます。そこで、コンピュータ上で地理情報を扱うシステム(GIS)を使用し、広葉樹林からの距離や過去の土地利用をもとに、広葉樹林化に適した人工林を予測するための地図を作成しました。また、その地図をもとに現地調査を行い、広葉樹の出現状況を確認したので紹介します。

